

表紙の写真
マレーシア パヤインダウェットランド
「イオンの森」

2004年



2022年



2004年～2009年、スズの採掘跡地にボランティア
2,515人とともに57,400本を植樹

公益財団法人 イオン環境財団

〒261-8515 千葉県美浜区中瀬1-5-1

TEL.043-212-6022

<https://www.aeonkankyozaidan.or.jp/>



ホームページ



Facebook



Instagram



2026.7

AEON
イオン環境財団

木を植えています
未来の子どもたちのために

自然とともに生きる

公益財団法人
イオン環境財団
概要書2026-2027



綾町イオンの森(宮崎県)
2024年自然共生サイトに認定

ご挨拶

日頃より公益財団法人イオン環境財団の活動にご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

1990年に日本で初めて地球環境に特化した民間企業の財団法人として活動を開始し、本年36年目となりました。

当財団は、現在「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の4事業を中心に活動しております。植樹事業は、自然災害、伐採や紛争などで失われた森の復興再生、生物多様性保全と利活用を目的に、昨年はカンボジアの世界遺産であるアンコール・トム遺跡を風雨から守るための植樹を含め、海外2カ所、国内5カ所で各地域のボランティアの皆さまと「イオンの森づくり」を行いました。

助成事業は、「里山（里地・里川・里湖・里海）の保全と利活用」をテーマとし、世界各地の環境活動に取り組む非営利活動団体に活動費の一部を助成しており、2025年度は111団体の申請を採択し、総額9,888万円の助成を実施いたしました。これにより、累計の助成実績は3,657団体、総額32億9,235万円となりました。

環境教育・共同研究事業では、連携先の全大学と共同で、毎年「イオンSATOYAMAフォーラム」を開催しており、本年は「里山・地域コミュニティがもつレジリエンス」をテーマに開催し、課題に関する学びの場の創出と環境人材の育成に取り組んでいます。

顕彰事業は、生物多様性保全と利活用に対し顕著な功績が認められた活動を顕彰する「生物多様性MIDORI賞」において、2026年8月に東京で授賞式・受賞者フォーラムを予定しています。

当財団は、社会環境が大きく変化する中であっても、各地域の皆さまと共に環境課題へ取り組み、人と自然が共生する「生物多様性ゆたかな社会」を創造することを目指してまいります。ひとつしかない地球を次代に健全な状態で引き継ぐため、今後とも積極的な環境活動に取り組めますので、変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人イオン環境財団
理事長 岡田 元也

設立趣旨

1990年、岡田卓也（現イオン株式会社名誉会長相談役）によりイオン環境財団は設立されました。地球温暖化、森林減少、海洋汚染など自然環境の危機は、地球規模で課題解決に取り組む必要があり、民間企業や市民団体などの力が必要とされてきました。そして現在は、官民一体となり活動しています。

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念に基づき、植樹活動や資源の再利用などに取組んできました。地球環境を守るための活動を自ら展開するとともに、同じ志を持つ団体への支援・助成を目的として設立しました。

財団の概要

公益目的事業

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 植樹に関する事業 | 2. 助成・支援に関する事業 |
| 3. 環境教育に関する事業 | 4. 顕彰に関する事業 |

基本財産

123,358,724,165円（2026年3月末現在）



植樹

アンコール イオン ネイチャーパーク(カンボジア)

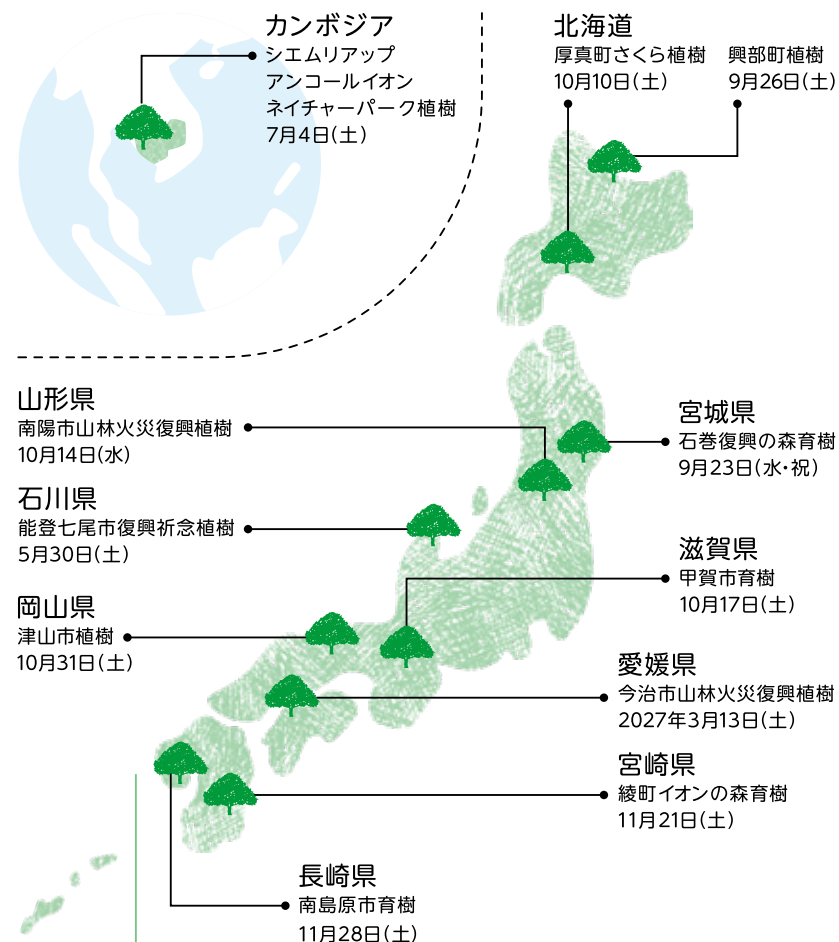
累計植樹本数

約**1,287**万本(イオン全体)

(2026年2月末現在)

自然災害や伐採などで失われた森林の再生、防災林の再生、気候変動や生物多様性の損失などの環境課題の解決を目指し、世界各地で、地域のボランティアの皆さまと植樹を行っています。枝打ちや下草刈りなどの育樹活動や、地域の伝統文化などの理解を深める環境教育もあわせて実施しています。

2026年の森づくり



■ 万里の長城・森の再生プロジェクト 100万本植樹



「伐採によって失われた万里の長城周辺の森に、再び豊かなみどりを取り戻す」ことを目的にスタートした取組みです。本プロジェクトは、1995年11月に開催された第2回「日中環境国際シンポジウム」において、当時の理事長・岡田卓也の提案を契機に、翌1996年、北京市人民政府との協働により発足しました。1998年7月には、北京市延慶県・八達嶺万里の長城周辺で、第1期第1回の植樹活動を実施。その後、第1期(1998～2000年)、第2期(2003～2006年)、第3期(2007～2010年)と、10年以上にわたり植樹を継続しました。これまでに日中両国から延べ約15,000人のボランティアが参加し、植樹本数は100万本に達しました。さらに2013年には、下草刈りや補植といった育樹活動にも取組み、持続的に森林再生を支えています。

■ カンボジアで44,000本植樹

風雨から世界遺産をみどりで守る



2025年7月、「第1回 アンコール イオン ネイチャーパーク植樹」を実施しました。カンボジアのシエムリアップにあるアンコール・トム遺跡周辺において、風雨から世界遺産を守るとともに生物多様性を保全するため、日本からの450人を含む両国のボランティアの皆さま800人と10,000本を植樹しました。当財団は、2002年から同国内各地で植樹に取組み、これまでの植樹本数は44,000本を超えています。

北海道 厚真町



2015年から3年間、厚真川上流の水源涵養機能回復のために自生種を16,400本植樹しました。2021年からは北海道胆振東部地震で被害を受けた吉野地区や、町有林の伐採跡地に3,130本のさくらを植樹しています。

山形県 南陽市



2010年から4年間、十分一山周辺に自生種のケヤキなど5,100本を植樹しました。2024年秋葉山山林火災からの再生を願い、2025年にイチヨウなど1,000本を植樹しました。

宮城県 石巻市



地域ボランティアの皆さまと、2012年に上釜ふれあい公園に15,000本、2019年から東日本大震災被災地の南浜津波復興祈念公園に抵抗性クロマツなど45,000本の植樹を行っています。

滋賀県 甲賀市



里山の再生を目的として、クヌギ、コナラ、アカマツなど2年間で3,200本の植樹を行いました。あわせて苗木の成長を促す育樹活動や、環境教育に取り組んでいます。

北海道 興部町



オホーツク海の潮風から農業・酪農を守るため、防風林の持続的な保全を目的に、2024年より地域の皆さまとトドマツの植樹を行っています。2年間で2haに6,000本を植樹しました。

岡山県 津山市



津山市阿波地区大ヶ山牧場跡地に広葉樹や針葉樹の森を再生させることを目指し、2025年に地域ボランティアの皆さま200人で1,400本を植樹しました。

千葉県 君津市



国有林の伐採跡地において、植樹や育樹などの森の整備活動を通じ生物多様性保全や、森とのふれあい環境教育の機会をつくるため、「君津イオンの森づくり」を行っています。

全国植樹祭・全国育樹祭への参画



全国植樹祭・全国育樹祭の「国民参加の森づくり」という趣旨に賛同し森林や緑の大切さへの理解を深めるため、関連行事で使用する苗木などの提供に協力しています。

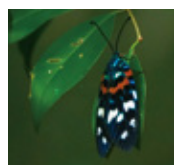
これからの森づくり(自然共生サイト認定)

植樹から始まった「イオンの森」での活動は、地域の多様なステークホルダーとつながることで、新たな里山づくりや伝統文化の継承を含めた幅広い活動領域へと広がっています。宮崎県の「綾町イオンの森」と長崎県の「南島原イオンの里山」では、成長した森での環境教育としての炭素蓄積量調査や、枝打ちなどの育樹活動も行い、自然共生サイトにも認定されました。

「南島原イオンの里山」での取組み



閉鎖され、荒廃していた南島原市南有馬町の無線送信所跡地を森に再生し水源涵養の機能を取り戻すため、2010年に植樹を始めました。3カ年計画で55,000本以上の木を植えました。



「南島原市みんなの森守協議会」をはじめ、地域の皆さまの協力により、植樹された苗木が大きな木々に育ち、さまざまな植物や動物が生息する森となっています。

「綾町イオンの森」での取組み



町全体がユネスコエコパークに認定されている綾町での植樹は、2013年に始まりました。綾中学校を建設するためスギを伐採した町有林の跡地を本来の里山に戻すため、2025年までに20,000本以上の植樹を行いました。



2023年からは、地域ボランティアの皆さまと森のメンテナンスや、ビオトープ・バグズハウス(虫の住処)づくり、草木染を含む環境教育など、多面的な環境活動に取り組んでいます。

2024年、綾町とイオン環境財団は、5年間の連携協定を締結しました。本協定に基づき生物多様性保全と持続可能な利活用、地域の伝統文化継承と新たな文化創造を含めた環境教育などを行い、人と自然が共生する新たな里山を目指してまいります。

自然共生サイトとは？



ネイチャーポジティブ実現に向けた取組みの一つとして、環境省では、企業の森や里地里山、都市の緑地など「民間の取組み等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」として認定してきました。2025年4月に地域生物多様性増進法が施行されました。

30 by 30(サーティ・バイ・サーティ)目標: 2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標



助成

第35回助成先（特非）CHARCOAL&AXE(千葉県山武市)

累計団体数

3,657団体

累計助成金額

32億9,235万円

(第1回1991年～第35回2025年)

世界各地で地域ボランティアとともに、豊かな自然を守り、環境活動に積極的に取り組む非営利団体を対象に、毎年総額1億円の助成公募を行っています。

里山の保全と利活用



第35回助成先 一般社団法人小さな地球の活動地(千葉県鴨川市)

近年、担い手の減少や利用の縮小などにより、里山を取り巻く環境は大きく変化しています。当助成を通じて、各地に根差した団体とつながり連携し、人と自然が共生する持続可能な地域づくりを進めています。

第36回(2026年)助成公募

テーマ：里山(里地・里川・里湖・里海)の保全と利活用

活動分野

- 里山の再生(植樹を含む)
- 里山の伝承
- 被災地の里山復興
- 環境教育
- 野生動植物・絶滅危惧種の保全

公募期間 2026年6月1日(月)～2026年7月20日(月・祝)

助成期間 2027年4月1日(木)～2028年3月31日(金)

助成総額
1億円

詳細は
こちら



助成期間：2026年4月1日～2027年3月31日

中部 21団体

小谷の自然を守る会



長野県

NPO法人伊豆未来塾



静岡県

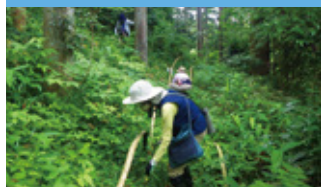
近畿 19団体

吉田山の里山を再生する会



京都府

里山の山野草を守る会



奈良県

九州・沖縄 9団体

NPO法人ふくおか湿地
保全研究会

福岡県、大分県

中国・四国 11団体

(特非)クリーンオーシャン
アンサンブル

香川県

北海道 1団体

大雪山マルハナバチ
市民ネットワーク

北海道

東北 10団体

(特非)白神ネイチャー協会



秋田県

関東 29団体

木もれびの森の花と木々を守る会



神奈川県

(特非)里山環境さなざわ



群馬県

海外の助成地



インドネシア



中国



ケニア



ベトナム



台湾



フィリピン



タジキスタン



ブラジル



(特非)イカオ・アコ(フィリピン)

第35回助成先の活動紹介

静岡県



はちくぼ会

「つなぐ棚田遺産」に認定された茅野地区で稲作や山林・竹林整備を通じた地域活性化に取り組んでいます。大学生と連携し、農林業の継承や交流によるコミュニティづくりを進めています。

中国 河北省



認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

国境を越えた植林を通じて、土壌を守りながら自然環境を回復し、地域の暮らしの向上と持続可能な発展につなげています。

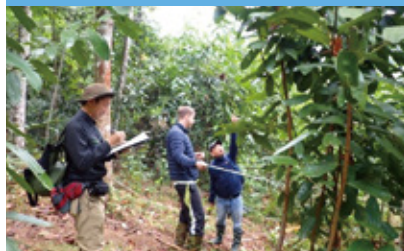
東京都



認定NPO法人 えどがわエコセンター

区民や行政などと連携し、ラムサール条約の登録湿地である葛西海浜公園で、環境学習や清掃、保全活動を行い、野鳥や干潟の生物の保全に取り組んでいます。

ベトナム ゲアン省・クエホン県



NPO法人 エコ・地域文化研究会

里山の多様な自然資源の中で、黄花草子桐に着目し、生態系の回復と地域の持続的な発展を目指しています。

助成先との連携事例

現在は、各団体が抱えている人手不足や継承者の育成などの共通課題の解決に対し、助成先との交流や情報共有を深め、各地での活動活性化に向けてともに取り組んでいます。

里山体験エコツアー



2024年12月 千葉県白井市 第33回助成先（特非）しろい環境塾

連携事例のひとつとして団体の活動地において「里山体験エコツアー」を実施しています。本ツアーを通じて、現代の里山が直面する課題やその価値への理解を深め、参加者一人ひとりが今後の暮らしや行動について考えるきっかけとなることを目指しています。

2025年度「里山体験エコツアー」の開催概要

テーマ：～みなかみの自然を守る、楽しむ、味わう～

助成している団体の活動を体験し、みなかみ町の自然に親しみ、里山について考えました。

実施日 2026年3月15日(日) 参加人数 23名

協力 第34回助成先（特定非営利活動法人）里山環境さなざわ

開催場所 群馬県利根郡みなかみ町



里山の防災についてレクチャー



ヤマアカガエル卵の調査



薪割り体験

今後の
予定

里山体験エコツアー／開催日：2026年9月5日(土)

開催場所 神奈川県横浜市野島海岸 共催 NPO法人 海の森・山の森事務局

*申込みは当財団のホームページから



環境教育 共同研究

アースデイ幕張 2025(千葉県)

参加人数
フォーラム 5,234人

ユース
プログラム 796人

参加人数 16
参加国数 カ国

大学をはじめとしたさまざまな専門機関などと連携し、里山に関する共同研究を進めるとともに、環境分野で活躍するグリーン人材育成のプログラムを構築し学びの場を提供しています。

イオンSATOYAMAフォーラム



2020年より各大学と連携し、SATOYAMA(里山)の再生・保全・利活用に取り組んでいます。2026年には、「里山・地域コミュニティがもつレジリエンス」をテーマに第3回イオンSATOYAMAフォーラムを開催しました。自然災害への備えや復旧・復興に向け、地域コミュニティや里山がもつレジリエンスの重要性が高まる中、宮崎県綾町や長崎県南島原市をはじめ、大学および現場で実践的に活動する一般社団法人のと復耕ラボなど多様なステークホルダーがそれぞれの視点から里山の課題について提言・意見交換を行いました。

第3回開催概要 / 開催日:2026年2月18日(水)

テーマ:里山・地域コミュニティがもつレジリエンス

開催場所 国連大学 ウ・タント国際会議場、オンライン

参加大学 京都大学、千葉大学、東京大学、
東北大学、早稲田大学

後援 環境省、国連大学サステナビリティ高等研究所

フォーラムの内容を絵で
記録したグラフィック
レコーディング



第4回開催予定 / 開催日:2027年2月11日(木・祝) 10:00~17:00

開催場所 東京国際フォーラム ホールD

大学連携・共同研究

早稲田大学



アースデイ幕張(千葉県)

AEON TOWA リサーチセンター

2020年9月、時代に即した環境課題の解決を目的に設立し地域課題対応や国際環境人材育成について協働し取り組んでいます。2022年からは寄附講座を開講し、里山を介した持続可能な社会づくりを通じて各地の代表的な里山にて研究を行っています。

- 活動予定
- サステナブルコミュニティ講座
- フィールド実習

東京大学



アースデイ幕張(千葉県)

イオン東大里山ラボ・イオン環境市民大学

2017年から協働している東京大学未来ビジョン研究センターと、自然と調和した健全な人間社会の構築と地域の経済再生を目指し、2022年に研究ユニット[イオン東大里山ラボ]を設立し活動しています。また、2026年は第1期のイオン環境市民大学を開講します。

- 活動予定
- 秦野市名古木地区里山実習(通年)
- イオン環境市民大学開講 2026年9月～2027年8月(全10回)

京都大学



フィールドワーク(京都府)

新しい里山・里海共創プロジェクト

2022年、京都大学フィールド科学教育研究センターと本プロジェクトを開始しました。学生の実習活動に加え、市民と連携した勉強会を開催するなど、森里海連環学の共同研究・活動を進めています。

- 活動予定
- 里山おーぶらぼ
- 島島ビーチクリーン
- 舞鶴水産試験所里海学習会

東北大学



仙台防災未来フォーラム(宮城県)

イオン防災環境都市創生共同研究

2021年、東北大学災害科学国際研究所、イオンモール株式会社、当財団の3者にて同部門を立ち上げました。レジリエント・コミュニティの創生を目指しています。

- 活動予定
- カミワンセミナー(カミスギ ワンプロジェクト セミナー)
- 仙台防災未来フォーラム 2027年3月13日(土)
- 商業施設の防災・減災戦略検討

国連大学



成績優秀者2名がCOP30の国際会議で発表(ブラジル)

Global Youth MIDORI platform(GYM)

2024年、昆明・モントリオール生物多様性枠組みなどの国際目標達成に向け、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)連携協定を締結しました。最新の科学的知見を基に、環境領域におけるユース世代のグローバルリーダー育成(GYM)を開催しています。

- 活動予定
- Global Youth MIDORI platform オンライン研修開催 2026年8月4日(火)～8月7日(金)

千葉大学



フィールド研究(千葉県)

君津イオンの森でのランドスケープ実習

2022年度より、同大学大学院園芸学研究科と連携を開始しました。フィールドワークによる調査研究を通じて、植物学・林学上の知見を高め、里山の再生モデルの構築を目指します。

- 活動予定
- 君津イオンの森ランドスケープ実習4月～7月
- 研究成果報告会 2026年7月31日(金)

長崎大学



平和と環境 対話会(長崎県)

参加型対話プロジェクト

2025年8月、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館にて、長崎大学・Future Earthと協働し、参加型対話会「『平和と環境』～戦後80年を経て未来の地球のためにつなぐ～」を開催しました。また、2025年12月、[わたしの食事・わたしの健康・地球の健康]をテーマに、プラネタリーヘルスダイエットのイベントを開催しました。

- 活動予定
- 「平和と環境」2026年9月27日(日)
- 「わたしの食事・わたしの健康・地球の健康」プラネタリーヘルスダイエット2026年10月18日(日)

琉球大学



寄附講座(沖縄県)

寄附講座「環境と平和」

2026年2月に、同大学研究施設と那フィールドにて、環境と平和をテーマにした講座を開講しました。やんばるの森におけるフィールドワークを中心に生態系と生活文化の結びつきや、世界自然遺産登録が地域にもたらす影響と役割などを学習しました。

- 活動予定
- 事前講義 2026年11月1日(日)
- 集中講義 2026年11月21日(土)～23日(月・祝)

アースデイ幕張

アースデイ幕張 2025 自然とともに生きる～幕張から始めよう～



当財団の拠点である千葉市幕張地区にて「アースデイ幕張2025」を初開催。千葉市豊砂公園、イオンモール幕張新都心において、環境課題に向き合うNPO団体・大学等研究機関・行政・企業など15団体20ブースにて活動展示やワークショップを実施しました。ステージでは活動紹介などにより地域の皆さまと交流を図り、「自然とともに生きる」地球の未来について考える2日間となりました。

会場の様子



2日間で約3,300人の方にご来場いただき、来場者アンケートでは来年も参加したいという割合が約90%と満足度の高い結果となりました。助成先や連携大学など、さまざまな出展があり、にぎやかな交流の場も生まれました。この出会いをきっかけにした新たな取組みが生まれることを期待しています。

今後の
予定

アースデイ幕張2026 / 開催日: 2026年10月3日(土)～4日(日)
開催場所 千葉市豊砂公園 イオンモール幕張新都心

活動紹介

■ エコツアー

エコパーク、ジオパーク、世界遺産の価値や、自然・文化の魅力、そして保全の重要性を学ぶエコツアーを実施しています。フィールドワークを通じて環境課題への理解を深めるとともに、人と自然が共生し、地域と協働しながら「生物多様性ゆたかな地域」を創造する社会の実現に、主体的に働きかける力を育みます。当財団は、2017年に日本ユネスコエコパークネットワーク、2022年に日本ジオパークネットワークと連携し、さらに2021年からは各地の世界自然遺産における環境活動にも取り組んでいます。

奄美大島世界遺産ツアー
2026年5月22日(金)～
5月24日(日)



奄美大島(鹿児島県)



志賀高原エコパークツアー
(長野県)

ユネスコエコパーク

ユネスコエコパークは、豊かな生態系を有し、地域の自然資源を活用した持続可能な経済活動を進めるモデル地域です。世界自然遺産が「自然の厳重な保護」を原則とするのに対し、エコパークは「自然環境の保全と地域の発展の調和」を目指している点が特徴です。日本国内では、現在10地域が登録されています。(2026年4月現在)



銚子ジオパーク
地域密着ツアー(千葉県)

ジオパーク

ジオパークは、地質・地形から地球の過去を知り、未来を考えて活動する場所です。地球科学的意義のある地質遺産や景観が、保護・教育・持続可能な開発を含む総合的な考え方によって管理された一体的なエリアとして位置づけられています。日本には48地域の日本ジオパークが認定されています。(2026年4月現在)

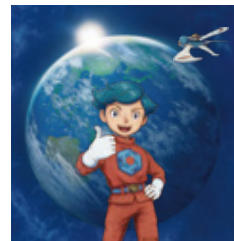
エコツアー予定(2026年)

- みなかみユネスコエコパーク/開催日:7月8日(水)
- 大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク/
開催日:10月10日(土)～10月12日(月・祝)
- 白山ユネスコエコパーク/開催日:11月2日(月)～11月3日(火・祝)

*申込みは当財団のホームページから

今後の
予定

■ 「FUTURE KID TAKARA」プロジェクト



©Beyond C./Future Kid Takara
製作委員会

財団設立35年の記念事業として、環境教育コンテンツのオリジナル短編アニメーション制作「FUTURE KID TAKARA」プロジェクトに参画しました。NHKエンタープライズとアニメーションスタジオのSTUDIO4℃が作成したもので、2025年9月に大阪・関西万博会場で完成発表を行いました。第8話「森を増やそう!」は、当財団の植樹地である北海道興部町での植樹風景を使用したストーリーとなっています。

物語

2100年からタイムワープしてきた未来の子どもタカラが、現代を生きる少女サラたちと出会い、すでに温暖化の影響が出ている地球のあちこちを探検し、自然エネルギーや森を増やすことなど気候危機を解決するためのヒントを学び、自らアクションを起こしていくことを決意する物語です。

詳細はこちら



■ 環境教育・啓発



千葉市動物公園(千葉県)

ちばアントレプレナーシップ

千葉市内の小中学生を対象に、地域の商業施設の環境活動を題材とした動画制作を通じて、創造力や発想力、起業家精神を育む「ちばE-tubeプロジェクト」を開催しました。



名古屋大学(愛知県)

Future Earth

第5回Future Earth日本サミットは2026年3月に名古屋大学で2日間開催され、「未来社会の想像と創造」をテーマに、地球温暖化や生物多様性の減少など地球規模課題の解決策について意見交換が行われました。当財団は運営委員会に参加しました。

今後の
予定

第6回 Future Earth 日本サミット/開催日:2026年12月3日(木)～4日(金)
開催場所 慶應義塾大学



生物多様性 MIDORI賞

2025年 第8回受賞者プレスカンファレンス(東京都)



累計受賞数

21人38団体

累計国数

20カ国

生物多様性MIDORI賞 (The MIDORI Prize for Biodiversity)

2010年の生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)日本開催を契機に、国連生物多様性条約事務局(SCBD)と連携し創設しました。生物多様性の保全とその持続可能な利活用の推進に顕著な貢献が認められる方々を顕彰する国際賞です。これまでに20カ国21名を顕彰しています。2009年から2022年まで国内賞として38団体を顕彰しました。

第9回生物多様性MIDORI賞 授賞式・受賞者フォーラム

開催日: 2026年8月27日(木) 16:00~17:30

開催場所 帝国ホテル東京



はちみつは、ミツバチがいないとつくれません。
じゃがいもは、畑に微生物がいないと育ちません。
まいにちの暮らしに、たくさんのおいしいものが、これからも届いてほしいから。
生物多様性を守るために行動するひとを応援します。



授与される記念盾



2025年プレスカンファレンス

生物多様性MIDORI賞の歴代受賞者

※受賞者の所属と肩書は受賞当時

2020年



カナダ
ポール・エベール氏
カナダ ゲルフ大学
統合生物学部教授



ブラジル
メリーナ・サキヤマ氏
生物多様性グローバルユース
ネットワーク(GYBN)共同創設者



カメルーン
ウィルシー・エマニュエル・
ビニユ氏
環境活動団体「カメルーン ジェンダー・
環境ウォッチ(CAMGEW)」創設者

2014年



インド
カマル・バワ氏
アショカ生態学環境研究トラスト 代表、
マサチューセッツ大学ボストン校 特別教授



ガーナ
アルフレッド・オテング＝
イエボア氏
ガーナ生物多様性委員会 議長



アルゼンチン
ビビアナ・ヴィラ氏
ピクーニャ/ラクダと環境学際研究プロジェクト 代表、
アルゼンチン学術研究会議 主席研究員

2018年



イギリス
キャシー・マッキノン氏
国際自然保護連合
世界保護地域委員会議長



レバノン
アサド・セルハル氏
レバノン自然保護協会事務局長



マレーシア
アブドゥル・ハミド・ザクリ氏
前マレーシア首相科学顧問

2012年



チリ
フアン・カルロス・
カステイーリャ氏
チリ カトリカ大学 教授



コスタリカ
ロドリゴ・ガメス＝ロボ氏
コスタリカ生物多様性研究所 代表



ベトナム
ボ・クイ氏
ベトナム国家大学ハノイ校
自然資源管理・環境研究センター名誉総長

2016年



メキシコ
アルフォンソ・アギーレ＝
ムーニョス氏
島嶼(とうしょ)生態系保全グループ
事務局長



ロシア
ユーリ・ダーマン氏
世界自然保護基金 アムール支所所長

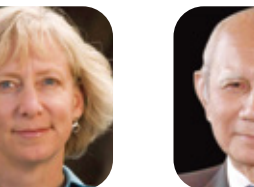


インド
ヴァンダナ・シヴァ氏
ナウダーニャ 創設者・代表

2010年



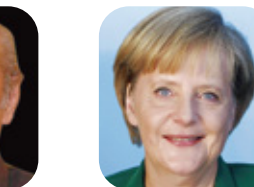
カナダ
ジャン・ルミール氏
生物学者、探検家、映画製作者



アメリカ
グレッチェン・C・
デイリー氏
スタンフォード大学 教授



インドネシア
エミル・サリム氏
インドネシア大統領諮問会議 議長、
元インドネシア人口・環境大臣



ドイツ
アンゲラ・メルケル氏
ドイツ連邦共和国 首相
国際生物多様性年 特別賞

イオン環境財団のあゆみ

